

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4292400019		
法人名	医療法人伴帥会		
事業所名	グループホーム椿高野(ユニット名 椿高野)		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙2314-5		
自己評価作成日	平成27年11月7日	評価結果確定日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JixvosvoCd=4292400019-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JixvosvoCd=4292400019-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年12月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・「その人らしい暮らしを続けるための支援」・「なじみの場所(ご自宅やお墓、思い出の場所等)の外出支援などその方が大切にしてきた、もの、暮らし、習慣、を続けていけるための支援をしている  
 ・「スタッフの質の向上」・「スタッフは全員が法人内の9つの委員会に籍を置き接遇や事故防止、感染症対策等の専門的知識の習得と情報の共有に努めている。  
 ・「安心感のある環境」・「同敷地内には老健施設、又は母体が医療機関であり連携体制を取っている。スタッフのほとんどは10年以上勤務しており、ご家族入居者とも厚い信頼関係を築けており安心感を持って頂けている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

敷地内に同じ法人の施設も併設され、法人全体で職員間の連携体制が整えられている。また法人内に9つの委員会があり、グループホームの職員もそれぞれの委員会に所属し専門的な知識を高めて現場にいかしている。介護計画書を担当のケアマネージャーをはじめ、現場の職員も個別で計画書、モニタリングを作成しており職員が連携して取り組んでいる。入居者の方々にも、専門的にも熟練された職員が長年勤務しており、安心して生活が継続できる環境が整えられている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に全員で作った理念の実践に向け、入居者の思いや言葉を日頃から職員で伝え合い、共通認識をしよう事で本人の思いに沿ったケアの実践に繋げている。	法人の理念や独自の理念があり、職員間で日頃から理念に基づいた支援ができるよう心がけている。利用者が安心して生活できる環境につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の昔なじみの店に買物や外食に出掛けてコミュニケーションを取り、繋がりを保てる様にしている	夏祭りなど地域の行事に出店をし、地域の人と交流する機会をもうけている。近隣になじみの店もあり、利用者とともに買い物をするなど日常的に交流をしている。	地域とのかかわりは概ね行っているが、火災や災害時、施設事故などの発生時に自治会の協力が得られるような体制づくりを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学生徒の体験学習や、実習生、ボランティアの受け入れ等において、認知症ケアの実践について話しをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては参加者に、実際のホームの昼食を食べて頂きアドバイスを頂いている。写真付きの報告書で取り組みを説明しご意見を頂いている	老人会長、家族地域包括支援センターの職員の方の参加がある。昼食をともにとりコミュニケーションを深めながら運営推進会議を行っている。意見交換も行えサービス向上にいかされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員様にも参加頂いており相互の積極的な情報交換の場となっている。また介護保険認定更新等必要時には随時窓口訪問し良好な関係を築いている	地域の消防団や行政の防災課など連携をとり、火災や災害時のアドバイスを受たり、介護保険課の職員とも連携をとって良好な業務が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法人内の身体拘束廃止委員会に参加し身体拘束について学びや振り返りの場がある。玄関の施錠についてはご家族ご本人への説明のもと行っているが、解除についても検討を続けている	法人内で研修があり、職員全体で身体拘束をしない環境づくりを目指している。家族との連携し身体拘束のない環境づくりができるよう協力しておこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員を中心に高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けたり、日々の言葉掛けやケアについても意見を出し合い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方でも現在利用されている方もおり、必要性を身近に感じることができている。日頃から社協の生活支援員、後見人の弁護士とも連携を取り安心できる暮らしの実践に向け話し合いを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についても、資料や現場を見て頂く等の手段で十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の説明時、面会時には必ず口頭でご意見を伺っている他、イベント後のご家族アンケート、又ユニット毎のご意見投書箱等で積極にご意見を聞く機会を設けている	施設の入口に意見箱を設置し気軽に意見を伺うか環境を整えている。家族の面談時やアンケートを送付し、意見を求めながら運営にいかしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者の訪問も日常的にあり日頃から意見の収集や連携体制作りをしている。法人内に9つの委員会があり職員それぞれが委員会に属し知識を深め意見や提案を行っている	法人内に9の委員会がある。その中で、働く環境を整える委員会があり、個別に職員面談し意見を聞いてもらえる。必要時は備品をそろえてもらうなどの環境が整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日現場に来て状況把握をしている。又全職員と年に2回個人面談をし悩みや相談を受けやりがいのある環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外での研修参加にも協力的である。研修の案内が来た際には職員間で回覧し気軽に参加希望意志を伝えられ、参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島及び雲仙市の連絡協議会に加入しており日常的に情報交換及び交流ができる環境下にある。雲仙市連絡協議会においては管理者は役員としても関わりをしており、研修会実施等の活動を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー、管理者のどちらかが事前に会いに行く時間をつくり、ご本人の様子や表情等を感じとりながら、安心してお話しが出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学へ来て頂いたり、ご家族様やご本人とのコミュニケーションを大切にすることで、意見や要望を聞きサービスの提供に繋げている。又、話しやすい雰囲気づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報シートを確認し、ご本人やご家族様との面談でアセスメントを行ったり関係機関からも意見を頂きながら必要なサービスが提案できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、教え合ったり励まし合いながら生活を共にし、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にとりつつ様々な報告、相談をしていく中でご家族様の気持ちを聞きながら、ご本人と良い関係が築けるようにしている。又、イベントへの参加等、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気づくりや心掛けています。又、季節のおたよりに書いたり受け取ったりして関係を築けるようにしています。馴染みのスーパーや美容室も利用できるよう支援しています。	利用者が以前から利用している美容院に行ったり、行きつけの市場に買い物に行くなどしている。近所のクリーニング屋に来てもらったり、馴染みの人が出入りしやすい環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が上手く関われるようにスタッフが間に入りながら関係づくりをしている。合同レクレーションや、食事や行事を通じて協力しあったり、話ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談を必要とされる場合は積極的に関わりを持てるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からご本人の思いや希望を汲み取っている。又、困難な場合は、過去の生活歴やご家族の話を元に本人本位に検討し支援している。	利用者との日頃の会話や生活歴などから利用者の好みや希望を把握する努力をしている。会話が困難な場合には表情や目線などから意思を少しでもくみ取れるようにしている。また、家族とのコミュニケーションをとるために面会時や家族会での会話を大切にし、家族の意向を把握し、職員間で共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご本人、ご家族からこれまでのことを聞き出し、スタッフ間でも情報の共有、把握ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録への記載や申し送り等にも状態変化があれば記載したりし、日々、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者がそれぞれに評価を行い、面会時にご家族とも話をした上で会議で話し合い、介護記録を作成、意見を反映できるようにしている。遠方のご家族には電話でご意見を聞くようにしている。	職員がそれぞれ担当する利用者についてケアプラン会議シートに支援経過を記録し、それらは介護計画の作成、見直しに活かされている。介護計画の変更された項目は見落としのないよう、色分けされており工夫が見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録に記載し、気づきを書くスペースや評価をする欄があり、情報の共有、次の時のケアに活かせるように工夫している。介護計画の見直しにも活用出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰りたいと言われる入居者様に対し、付き添い外出をしたり、美容院に行くことが難しい方の為に訪問美容をお願いしたりと出来る限りニーズに応えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の馴染みの美容院へ出掛けたり、婦人会の方やご近所の方と触れ合える様な場の提供等を行い、いつまでも地域との繋がりを保てるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	まず、ご本人、ご家族の希望を尋ね、母体の医療機関や皮膚科、歯科、眼科受診ができるように支援を行っている。	協力医療機関が法人内にあるため、利用者や家族が安心して受診することができ、往診にも対応している。本人や家族の希望により歯科や皮膚科など、それまでのかかりつけ医への通院支援も行っている。通院後の家族への報告は、通院当日、すみやかに電話で日頃の様子とあわせて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康チェック時に状態変化がある入居者の報告、助言を頂き、必要時は受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時や面会時に病院での様子や状態を病院関係者と情報交換をしている。又、SW等と毎週ミーティングを行い、関係者との関係作りや早期に退院できるよう相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご本人やご家族の意向を踏まえ、職員と医師が連絡を取り、ご家族とも十分に話し合いを行った上で納得して最期を迎えられるように出来る限りのケアができるように取り組んでいる。	看取りについて、契約時に本人、家族に説明を行っているが、今のところ看取りの事例はない。今後、希望者が出ていることから、ターミナルケアについての外部研修を職員にフィードバックするなど、利用者家族の希望にそえるよう受け入れ体制を整えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成を行っており、定期的に見直しをしている。又、同法人の介護老人保健施設とも協力し、応急手当の講習会や避難訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルと連絡網があり、スタッフや消防機関、地域の方と連絡が取れるようにしている。定期的に自主避難訓練(消防立合いも含む)を行い、実践できるようにしている。	夜間を想定した火災の避難訓練、災害の避難訓練をそれぞれ年に6回、3回と行っている。備蓄品はチェックシートを用い食品の賞味期限の管理を行い、3日分の食料を備蓄している。その他、カセットコンロ、ポータブルトイレ、懐中電気、電池等の整備もされている。法人の防災委員会があり、職員は防災についての会議、勉強会など行っている。また、地元の消防団の方々に内部視察に入ってもらい、適切なアドバイスを受けるなど、地域との連携を図るとともに災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の失敗や声かけ誘導時は、他の人に気付かれぬような声かけや移動介助の工夫をしている。又、自己決定しやすい声かけに努め、ご本人の要望は可能な限り聞き入れ対応できるようにしている。	職員は長年利用者として生活をしていることで慣れがあるが、常に敬意を持って接するよう心がけている。目線を合わせ、プライバシーを損ねない言葉かけを行い、意思の疎通がうまくいかなかった場合などには、他の職員が助け舟を出しワンクッション置くことで対応をしている。職員は入職時に秘密保持に関して契約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせた、選びやすく答えやすい働きかけをしている。言葉で伝わらない場面は、現物を見て選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日その時のご本人の状態や気持ちを尊重し、できるだけ個別対応に努めている。又、日々の会話の中から汲み取り、ご本人の希望を尊重して臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりと生活の継続性を保つ為に、馴染みの美容院へ行ったり又、美容師さんへ来てもらっている。又、外出時にはおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物を聞き出し献立に加え、一緒に買物、調理等楽しみながら食事準備から後片付けを流れとして、食事に関われるように工夫している。	職員が持ち回りで一週間分の食事の献立表を作成し、その日の担当職員が調理を行い、家庭の料理を提供している。作成した献立表は法人内の栄養士にチェックしてもらっている。利用者の体調に合わせて、苦手な食材の別メニューやお粥、きざみ食の提供、自分の居室での食事などにも対応している。利用者も調理の下ごしらえを行ったり、下膳を手伝ったり、ランチョンマットを干したり畳んだり、できることを行っている。また、おやつ作りや干し柿作りを職員と一緒にし、食を楽しむ工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量、残食量を把握しながら主治医に相談、助言を頂いている。又、その方の嗜好品や食べやすい物の提供工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は、声かけ見守りをし、出来ない方は、毎食後口腔ケアを行いながら、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、身体機能に応じた声かけや、介助を行い、パット類はご本人に合わせ検討し、失敗や不安を軽減できるように支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を心がけている。入所時は常時おむつだったが日中は声かけ誘導により、本人からの排泄の訴えが出来るようになり、リハビリパンツに変更しトイレでの排泄が可能になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘の方にはバナナや乳製品、食物繊維の多い食材の提供と、十分な水分補給を行い工夫している。又、散歩や軽運動を一緒に行うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングを見ながら声かけを行い、その時の気分で入浴して頂いている。季節には、菖蒲湯、ゆず湯等の工夫もしている。	個別入浴で3日に一回のペースで入浴を行っている。本人の希望があればその都度対応している。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を嫌がる利用者には担当を変更したり、時間のタイミングをずらすなど、誘い方に変化をつけて支援している。体調に合わせ清拭やシャワー浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が好きなき時にベットへ横になられ、休んでいただいている。休まれている時にも常に見守り声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をセットした際には、スタッフ2名で確認を行い服薬の支援に努め、理解も出来ている。服薬後の変化や症状が分かるよう記載しており、主治医に報告し相談・指示も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の下膳や布巾を干したりたたんだり、または調理の手伝いをして頂くことで、それぞれに合った役割をもち、楽しんで頂ける場面作りを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が行きたい場所へ外出・外食をしている。可能であれば家族の方も一緒に参加して頂いている。	本人の希望で買い物へ出かけたり、馴染みのお店や美容院に出かけている。お天気の良い日は敷地内を散歩したり、ドライブに出かけ花見を楽しんだり、アイスを食べたり、誕生日には本人の希望のお店で外食にも出かけている。家族にも協力してもらい、お墓参りなどの外出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、財布を自分で所持して頂いている。スタッフはご本人と一緒に金額の確認をし、お金を自由に使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が話したい時に、電話をして頂いたり、ハガキを作成しメッセージを記入して家族とのやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を行い臭いをこもらせないようにし、LED照明の使用。入居者にあつた室温を設定している。花や小物を飾って季節感を採りいれている。	開放感のある吹き抜けのリビングには、くつろげるソファや椅子が所々に置かれてあり、利用者はお気に入りの場所にくつろいでいる。中心にあるリビングは広い窓と天窗からの自然の光が差し心地よい空間が広がっている。温度、湿度計を設置し、管理を行っている。特に湿度に注意し加湿器は安全面を重視した機種に変更して設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファが置いてあり、自由に過ごすことが可能。廊下にも椅子がありのんびり過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンスの位置は、ご本人が使用しやすいよう配置し、愛用品を使って頂いている。	利用者の居室は職員が清掃し清潔を保てるよう心がけている。居室には利用者の家族の写真や自作の作品など飾っており、家族の希望で好きな音楽を流している部屋もある。テレビや家具の持ち込みにも対応している。通常の照明の他に大きな間接照明が各居室にあり、和の雰囲気落ち着いた空間を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札があり、ご自身の部屋であることをわかりやすくしている。又、ご本人の身体状態に合わせ、Pバーやベット柵を利用し、安全に生活できるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400019		
法人名	医療法人伴帥会		
事業所名	グループホーム椿高野(ユニット名 山椿)		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙2314-5		
自己評価作成日	平成27年11月7日	評価結果確定日	平成28年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「その人らしい暮らしを続けるための支援」・なじみの場所(ご自宅やお墓、思い出の場所等)の外出支援などその方が大切にしてきた、もの、暮らし、習慣、を続けていけるための支援をしている</p> <p>・「スタッフの質の向上」・スタッフは全員が法人内の9つの委員会に籍を置き接遇や事故防止、感染症対策等の専門的知識の習得と情報の共有に努めている。</p> <p>・「安心感のある環境」・同敷地内には老健施設、又は母体が医療機関であり連携体制を取っている。スタッフのほとんどは10年以上勤務しており、ご家族入居者とも厚い信頼関係を築けており安心感を持って頂けている</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JixvosvoCd=4292400019-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JixvosvoCd=4292400019-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成27年12月3日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に全員で作った理念の実践に向け、入居者の思いや言葉を日頃から職員で伝え合い、共通認識をし合う事で本人の思いに沿ったケアの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の昔なじみの店に買物や外食に出掛けてコミュニケーションを取り、繋がりを保てる様にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学生徒の体験学習や、実習生、ボランティアの受け入れ等において、認知症ケアの実際について話しをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては参加者に、実際のホームの昼食を食べて頂きアドバイスを頂いている。写真付きの報告書で取り組みを説明しご意見を頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員様にも参加頂いており相互の積極的な情報交換の場となっている。また介護保険認定更新等必要時には随時窓口訪問し良好な関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法人内の身体拘束廃止委員会に参加し身体拘束について学びや振り返りの場がある。玄関の施錠についてはご家族ご本人への説明のもと行っているが、解除についても検討を続けている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員を中心に高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けたり、日々の言葉掛けやケアについても意見を出し合い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方でも現在利用されている方もおり、必要性を身近に感じることができている。日頃から社協の生活支援員、後見人の弁護士とも連携を取り安心できる暮らしの実践に向け話し合いを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についても、資料や現場を見て頂く等の手段で十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の説明時、面会時には必ず口頭でご意見を伺っている他、イベント後のご家族アンケート、又ユニット毎のご意見投書箱等で積極的にご意見を聞く機会を設けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者の訪問も日常的にあり日頃から意見の収集や連携体制作りをしている。法人内に9つの委員会があり職員それぞれが委員会に属し知識を深め意見や提案を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日現場に来て状況把握をしている。又全職員と年に2回個人面談をし悩みや相談を受けやりがいのある環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外での研修参加にも協力的である。研修の案内が来た際には職員間で回覧し気軽に参加希望意志を伝えられ、参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島及び雲仙市の連絡協議会に加入しており日常的に情報交換及び交流ができる環境下にある。雲仙市連絡協議会においては管理者は役員としても関わりをしており、研修会実施等の活動を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い生活状況を把握し、ご本人が困っている事不安に思っている事求めている事を理解するよう努め、安心して来て頂けるよう環境作り関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、これまでのサービス利用状況や、ご家族による介護の経緯、苦労、不安、要望に耳を傾け共感と傾聴の中で関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人とが家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提供を行っている。又、他サービスも視野に入れ、ご本人に合った支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力を発揮して頂ける事を第一に考え、支援する側される側と言う意識を持たず、互いが協力し合って生活出来る環境、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常の様子をこまめに報告また相談しながら共にご本人を支える様努めている。面会時の外出や電話での会話等、家族との関係が途切れない様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出、行きつけの店の利用等地域社会との関係が途切れない様支援している。又、友人や近所の方が遊びに来れるような環境作りを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせる様場の提供を行ったり、職員と一緒に参加し関係が円滑になる様働きかけ、互いに関わり合い助け合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へも誕生日や敬老の日のお祝いに行ったりして今までと変わらない関わり合いを大切にしている。ご家族とも話しやすい関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わり合いの中でご本人の希望、意向を把握出来る様努めている。入居者の希望、意向に応えられるようスタッフ間でも情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に話を聞いたりご本人との会話の中、回想法等でこれまでの暮らし方を聞き生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方を把握し状態に合わせた対応を行っている。状態、様子に変化があった場合はスタッフ間で伝え合い情報共有できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を聞いたり担当者会議でスタッフからの意見も聞き各入居者に適したプラン作成、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子を申し送り合って勤務に入りその日のケア対応、気づき等を個別記録に記入している。気づき等はその都度、スタッフ間で申し送り情報を共有しながらケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方より面会に来られるご家族がゆっくり過ごして頂けるよう、食事提供したり宿泊出来る部屋がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の馴染みの美容室へ行ったり、出向く事が困難な方は美容師の方に来て頂ける様サポートし、いつまでも地域の方々との関わりを絶やさないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関、及びご本人やご家族の希望に合わせて、皮膚科・歯科・眼科受診し、バイタルや食事量など、細やかに状態観察を行う事で、小さな変化を見逃さず早めの受診に繋げている。 また、受診後は職員間、ご家族とも情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間の申し送りや、週1回のNsによる健康チェック時等に個々の様子を報告し、助言頂き必要時は受診出来る様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や随時面会訪問し、HPでの様子や情報を交換している。また、SW、連携室等と毎週ミーティングをし、関係者との関係づくりを行い早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族、医療の意見聞きながら、十分な話し合いを行い、安心かつ納得した最期を迎えられるよう、教育委員会の研修報告書を回覧して、専門知識を習得して実践に備えている。ご家族やご本人の希望があれば、思いに沿う方針である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じて、マニュアルに沿った対応が出来る様にしている。介護老人保健施設とも協力し、応急手当等の講習会、避難訓練時にも初期対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	2ヶ月に1回の自主避難訓練、年2回の消防立ち合いの避難訓練を実施し、その中に自然災害に対する訓練を取り入れて、防災意識を強く持ち、実効性の高い訓練を行っている。また、備蓄品の管理体制を整備している。マニュアルや連絡網があり、職員や消防機関、地域の方々と連絡が取れる様にしている。地域消防団とも施設の見学や話し合う場を設け、馴染みの関係を作り、協力体制を整えると共に、安心を確保出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し出来る限り要望を聞き入れ対応出来るようにしている。排泄で失敗された時は、プライバシーを損ねないように声掛け等に心掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいようにご本人の希望を傾聴し、思いを引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で一人ひとりのその日のペースに合わせご本人の気持ちを尊重するように心掛けている。又会話の中から要望を汲み取り臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを否定せず、馴染みのお店や美容院に行けるよう支援している。又外出の際は、お化粧品やおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から好きな食べ物を聞き出し献立に加えている。食材の下ごしらえや食後の下膳、食器拭き、テーブル拭き等一人ひとりの力を活かしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が片寄らないように献立を立てている。又主治医や栄養士の助言を頂きご本人に合った補助食品等の購入をしている。食事もその方に合わせ食べやすい物を提供し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人が歯磨きを行われた後、磨き残しが無いかチェックを行い仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄有無を確認し、出来るだけトイレを利用出来る様に支援し、定期的な声掛けや様子を気かける様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	マッサージや乳酸菌・食物繊維の多い食材を使用したり、トイレへの誘導を促す様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある時は、対応出来る様にしている。定期的な入浴もしているが、出来るだけ本人に合わせる様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休む事はもちろん、箇所にソファー等を置いていたり、居間でゆっくり過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬は、きちんと内容を確認し様子を見る様にしている。 変化があった場合は、すぐにDr. へ連絡する体制も整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった手伝い作業や運動を見極め、それぞれが役割として行われている。 買い物や外食をする事で、楽しみや気分転換をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食の希望があれば、その都度対応し出掛ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持される方もおられる。個々に応じて、職員より金銭管理受けられている。買い物や外出等必要時、お金を支払って頂いたり、使えるように支援できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等へ電話や手紙(ハガキ)にて近況報告が行えるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度等不快にならないように注意し、調整している。季節に合った装飾物等を取り入れ、見た目良く、居心地良い空間作りができるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング等で個々に合わせて思い思いに過ごして頂けるよう、椅子を準備したり配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や私物があり、いつでも使用できるように、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には個々に応じて、理解できるような声掛けや説明書きをしており、出来る事、わかる事の工夫している。		